

# 報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

平成30年4月19日(木)15:30~16:30 懇談会

※懇談会終了後、お時間のある方は引き続きご懇談ください。

## 1. 挨拶

— 吉田 憲司 (館長)—

## 2. ニュースリリース

●みんなの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

— 園田 直子 (議長)—

## 3. 企画展

「アーミッシュ・キルトを訪ねて—そこに暮らし、そして世界に生きる人びと」

[詳しくはこちら](#)

無地の服を着て馬車を駆る北米のキリスト教再洗礼派アーミッシュが布の端切れを生かしてつくるキルトは、その鮮やかな色合いや細やかなステッチで人びとを惹きつけています。2011年より収集してきたみんなのコレクションを素材として、キルトに織りこまれた日々の暮らしや物語、キルトが結ぶ世界との交流をたどります。

会 期：2018年6月21日(木)~9月18日(火)

会 場：国立民族学博物館 企画展示場

観覧料：一般 420円(350円)、高校・大学生 250円(200円)

中学生以下 無料

※()は20名以上の団体料金。リピーターは団体料金を適用

※本館展示もご覧いただけます。



裁縫セット

— 鈴木 七美 (グローバル現象研究部 教授)—

## 4. みんなく映画会「少女は自転車にのって」(第41回みんなくワールドシネマ)

詳しくはこちら

本館では2009年度から、研究者による解説付きの上映会「みんなくワールドシネマ」を実施しています。10年目の今期は昨年に引き続き、<人類の未来>をキーワードに映画上映を展開していきます。今回はサウジアラビア＝ドイツ合作の映画「少女は自転車にのって」を上映します。明朗活発な10歳の少女ワジダの日常生活や願いをとおして、サウジアラビアにおける女性の状況について考えます。

日時：6月9日(土)13:30～16:00(開場 13:00)  
会場：国立民族学博物館 講堂  
定員：450名(先着順/事前申込不要(整理券配布))  
参加費：要展示観覧券(一般 420円)



— 鈴木 紀 (人類文明誌研究部 准教授)—

## 5. シンポジウム「デジタル写真データベースが拓く学術活動の未来

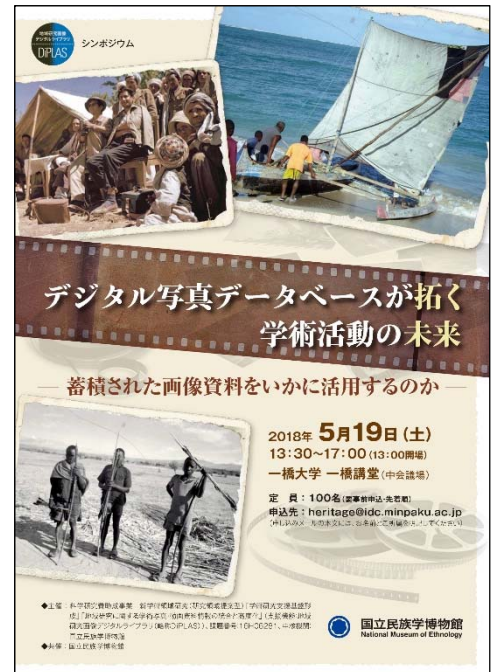
—蓄積された画像資料をいかに活用するのか—

詳しくはこちら

本館が中心となって進める「地域研究画像デジタルライブラリ」(略称 DiPLAS、正式名称は主催者名を参照)では、広い意味で地域研究に関わって進められている科学研究費助成事業(科研費)プロジェクトを対象に、過去に蓄積された画像資料のデジタル化・共有化を技術的に支援してきました。

本シンポジウムでは、この分野での研究支援の重要性を訴えるとともに、支援プログラムが個々の研究の進展に及ぼした効果を検証し、今後の学術のありかたを構想します。

日時：5月19日(土)13:30～17:00(開場 13:00)  
会場：一橋大学 一橋講堂 中会議場  
東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内  
定員：100名(先着順/要事前申込)  
参加費：無料  
主催：科学研究費助成事業 新学術領域研究(研究領域提案型)『学術研究支援基盤形成』「地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化」(支援機能：地域研究画像デジタルライブラリ(略称 DiPLAS)、中核機関：国立民族学博物館)  
共催：国立民族学博物館



— 飯田 卓 (学術資源研究開発センター 教授)—

## 6. 3次元CGで見せる建築データベース「東南アジア島嶼部の木造民家」

### の公開について

[詳しくはこちら](#)

本館では、3次元CGで見せる建築データベース「東南アジア島嶼部の木造民家」を3月28日に公開しました。本データベースは、インドネシアを中心にフィリピン、マレーシアとベトナムの一部をふくむ諸民族(多くはオーストロネシア語族)の木造民家とその付属建築を対象にしています。木造建築の世界的中心のひとつであるこの地域では、家屋が民族的なアイデンティティの対象として、世界にも類のない独特の建築様式を発展させてきました。建築構造を忠実に再現した3次元CGを通して、その建築の魅力と謎にせまります。



— 佐藤 浩司 (学術資源研究開発センター 准教授)—

## 7. 日本の文化展示関連情報データベースの公開について

[詳しくはこちら](#)

本館では、日本の文化展示関連情報データベースを3月30日に公開しました。本データベースは、本館展示場の「日本の文化」で展示している資料に関連するデータベースであり、展示場では解説できなかった資料の用途なども知ることができます。また、まだ用途が掲載されていない資料の情報については、共同研究者の手によって少しずつ追加されていきます。

このデータベースを使うことによって、日本の伝統的な生活文化を知るひとつのきっかけになれば幸いです。

ねぶた祭用練り物(ねぶた)



標本番号	H0037375	<a href="#">この内容が存在しない項目も表示する</a>
セクション	祭りと芸術	
サブセクション	弘前のかたち	
コーナー	旗	
表示用標本名	ねぶた	
標本名	ねぶた祭用練り物(ねぶた)	
標本名(カタカナ表記)	ネブタマツリヨウネリモノ(ネブタ)	

© National Museum of Ethnology, Japan. All rights reserved.

— 日高 真吾 (人類基礎理論研究部 准教授)—

## 8. 最新の研究紹介

[詳しくはこちら](#)

### 「肉食行為の研究」

(野林 厚志 編/平凡社)

— 野林 厚志 (学術資源研究開発センター 教授)—

### 「東南アジアのポピュラーカルチャー —アイデンティティ・国家・グローバル化」

(福岡 まどか、福岡 正太 編著/スタイルノート)

— 福岡 正太 (人類基礎理論研究部 准教授)—

# 「ストリートの精霊たち」

(川瀬 慈 著／世界思想社)

— 川瀬 慈 (人類基礎理論研究部 准教授)—

## 9. 研究こぼれ話

### 「聖都」エルサレムの今

トランプ大統領によるアメリカ大使館移転宣言以来、エルサレムをめぐる状況は目に見えて悪化しています。その背景と、時を同じくして起こったキリスト教の聖地・聖墳墓教会の閉門騒動についてお話しします。ことに私がおもな調査対象としている、イスラエル・ガリラヤ地方とヨルダン川西岸地区・ベツレヘム周辺のキリスト教徒の視点からみた問題点を取り上げます。



エルサレム旧市街のダマスカス門。かつては市が立ち、賑わいをみせていたが、今回の状況悪化を受けて、この門にも大きな変化があった。詳しくは当日。

— 菅瀬 晶子 (超域フィールド科学研究部 准教授)—

## 10. 研究こぼれ話

### 過去の映像記録を現地に返す

みんぱくが1982年にネパールで撮影した楽師カースト、ガンダルバの映像を、2016年に被写体となった集団に提供しました。さらに34年の変化を調査しつつ再び映像に撮らせてもらい、映像作品『ネパール 楽師の村 バトゥレチョールの現在』と特集「ヒマラヤの吟遊詩人—ガンダルバの現在」『季刊民族学』を発表しました。調査で明らかになったこと、みんぱくらしい情報の還元、今後の展望などをご報告します。



村で「里帰り上映会」を開くと、約200人の村人が集まってくれました。

— 南 真人 (グローバル現象研究部 准教授)—

## 11. 国立民族学博物館友の会制度の改定のお知らせ

[詳しくはこちら](#)

市民による博物館への支援と積極的な活用を目的とした、「国立民族学博物館友の会」制度を、この4月より改定いたしましたので紹介させていただきます。多くの方々に幅広くご参加いただき、文化人類学及び民族学、国立民族学博物館の活動に関心を持っていただくことを願って「正会員」へのサービスを拡充するとともに、「ミュージアム会員」をあらたに設けました。

— 包国 征治 (企画課 課長)—

※その他の配布資料

外来研究員受入一覧(資料7)、外国人研究員新規受入一覧(資料8)、刊行物報告書(資料9)



国立民族学博物館

懇談会についてのお問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報係

電話 :06-6878-8560(直通) FAX:06-6875-0401 Mail:koho@idc.minpaku.ac.jp